

兵庫県香港経済交流事務所 Hyogo Business & Tourism Centre (HK)

見本市のメッカ香港を拠点にアジアへ展開

アジアの中心に位置する香港は、歴史的に交易と金融の中心として発展してきました。年間約6,000万ともいわれる域外からの来訪者があり、交流人口の多さがその魅力と活力を増幅させています。また、関税障壁がない上に富裕層が多い有望市場の香港は、成長著しいアジアにおける見本市のメッカともなっています。兵庫県香港経済交流事務所は、その香港を拠点に本県の持つ魅力の発信や、県内企業・団体の皆さまのアジア展開の支援に取り組んでいます。ここでは当事務所が出演している特徴的な事業例についてご紹介します。

(1) 香港ブックフェア(Hong Kong Book Fair 2016)

日本のポップカルチャーが浸透し、多くのアニメファンを有する香港における最大の本の展示会「香港ブックフェア」に本県が出演しました。ソフトパワーの重要性が叫ばれる中、昨年度に続いて2回目の出演となる今回は、本県ゆかりの漫画家である手塚治虫、横山光輝両先生の作品を柱としたブースを設け、来場者に県内各地の魅力を発信して、誘客促進を図りました。

ここでは展示作品に関係する各プロダクションのほか、宝塚市立手塚治虫記念館、県内大手書店、市町等の協力を得て、マンガの閲覧展示に加えてご当地キャラクターのぬいぐるみ・マスコットがにぎわいを添えました。これらの展示・PRにより、本県ブースは県内市町や関連企業・団体のプラットフォームとしての機能を発揮し、多くの来場者にその魅力をお伝えすることができました。中でも「鉄人28号」の塗り絵は、夏休みに入った子どもたちとその家族に大いに喜ばれ、熱中する姿が大変印象的でした。

と き：2016年7月20日(水)～26日(火)

出展者：兵庫県ほか640社・団体以上

来場者：約1,020,000人



香港ブックフェアでのプレゼン

(2) 香港フードエキスポ(Hong Kong Food Expo 2016)

日本の農林水産物・食品の最大の輸出先である香港は、日本食が広く普及し、また食におけるレベルの高さから競争も激しくなっています。安全で高品質な県産農畜水産物の新たな販路開拓の一環として、香港を基点に、東アジア、さらには東南アジアへの輸出促進を図るため、アジア最大級の国際総合食品見本市「香港フードエキスポ」に、本県と県内事業者の皆さまで構成する「ひょうごの美味し風土拡大協議会」が出演しました。

同協議会からは、県産米、乾燥ナマコ、牡蠣製品、手延べそうめんなどに関連する企業・組合の皆さまが出演され、ブースに訪れたバイヤーと密に商談をされたほか、一般来場者にも食品を振る舞うなど、PRに余念がありませんでした。

と き：2016年8月11日(木)～13日(土)

出展者：25カ国1,400社・団体(うち日本から320社・団体)

来場者：約490,000人



香港フードエキスポでにぎわう兵庫県ブース

今後も当事務所では香港を拠点に、さまざまな機会を捉えて本県の魅力を発信するとともに、県内企業・団体の皆さまのアジアへの展開を支援してまいります。

兵庫県香港経済交流事務所 (Hyogo Business & Tourism Centre (HK))

Unit 506, 5/F, Tower 2, Lippo Centre, 89 Queensway, Admiralty, Hong Kong

TEL (+852) 2110 4570 FAX (+852) 2110 4571 URL <http://www.hyogobtc.com.hk>